

エコアクション21

環境経営レポート

【 2023年度版 】

運用期間：2023年4月～2024年3月



イシバシテクノ株式会社

2024年 6月 20日 発行

経営理念・経営ビジョン

「経営理念」

- 深絞り技術を核とした高度な成形加工技術とサービスを提供し社会に貢献する。
- 人間尊重を基本として全ての人の幸せを追求する。

「経営ビジョン」

I 事業領域(ドメイン)

- ・トータルな成型技術で、時代の変化に限りなく挑戦する。
- ・新素材、新製品開発、新分野進出により更なる成長を続ける。

II 人材育成

- ・未来への目標、それを実現するための人材育成を行う。

III 法令順守(コンプライアンス)

- ・すべての事業活動において、法令、社会規範、倫理、道德の遵守を最優先する。

IV 地域社会への貢献

- ・地域社会の習慣や文化を尊重し、地域の発展に貢献する。

V 環境保全

- ・地球環境保全が人類共通の課題である事を認識し、その事業活動において地球環境に配慮して行動する。(エコアクション21)

VI 顧客満足(CS)

- ・品質を第一に考え、常にお客様の満足を得る製品とサービスを提供する。

イシバシテクノ株式会社

代表取締役 原田 正

経営戦略・経営計画

「経営戦略」

- I 特装車両部品を始め、産業機器、住設等バランスのとれた売上高の確保に努める。
- II 適正収益の確保を図るとともに、キャッシュフロー経営に重点を置く。
- III 製造Gr(生産体制の充実を図り、優れた製品づくりを目指す)
 - ・現場改善力の強化
 - ・老朽設備の順次メンテ、更新
- IV 品質管理Gr(品質の更なる向上を目指す)
 - ・品質管理体制の充実
- V 企画開発Gr創設
 - ・金型設計開発体制の強化
 - ・自社ブランド製品の開発

「経営計画」

(戦略項目) I 売上高

- II 経常利益
- III 経常利益率
- IV 営業キャッシュフロー
- V 一人当たり売上高
- VI 労働生産性
- VII 労働分配率
- VIII 新規開拓部門
- IX 改善提案制度

イシバシテクノ株式会社

代表取締役 原田 正

2023年度 課題とチャンス

【経営における課題(事業上の弱み、問題点等)】

(事業者の内部に起因するもの)

- ・事業基盤の強化並びに再編
- ・生産性向上
- ・「強み！！」の情報発信力
- ・大型設備の老朽化
- ・人員減少

(事業者の外部に起因するもの)

- ・産業構造の変化（自動車・家電、他）
- ・世界経済の不安定化（米/中・日/韓・EU）
- ・大規模災害による影響（受注減、原材料入手、物流）

【経営におけるチャンス(事業上の強み、有利な点等)】

(事業者の内部に起因するもの)

- ・新市場の発掘
- ・同業他社との差別化
- ・社員の意識向上
- ・省力化、不良品の削減
- ・M&Aの業績効果

(事業者の外部に起因するもの)

- ・労働環境の見直し並び管理体制の再構築
- ・シニア世代の活用拡大（知識・技術）
- ・海外からの部品回帰
- ・脱プラによる樹脂から金属、アルミへの転換
- ・BCPによる大手企業の拠点進出（九州&西日本）

《 環境経営方針 》

【 基本理念 】

私達(イシバシテクノ株式会社)は、地球環境保全が人類共通の課題であることを認識し、その事業活動において地球環境に配慮して行動します。

【 行動指針 】

1. エコアクション21環境経営システムを構築・運用し以下の事項を推進します。

- (1) 省エネ(電気、燃料)による
二酸化炭素排出量の削減
- (2) 廃棄物の適正処理及び削減
- (3) 水使用量の削減
- (4) エコドライブの実践

2. 環境関連法令等を遵守します。

3. 環境保全関係の行政機関・団体などの環境保全施策に協力をすると共に、地域社会における環境保全活動に積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。

4. 環境経営レポートを作成し、環境取組の状況を公表します。

制定日 2009年 10月 1日

改訂日 2019年 4月 1日

イシバシテクノ株式会社

代表取締役

原 田 正

1 事業の概要

事業所名 イシバシテクノ株式会社
代表者 代表取締役 原田 正
所在地 本社・工場 〒822-0011 福岡県直方市中泉9 1 5
環境管理責任者 取締役製造部長 中尾 久彦
連絡担当者 取締役製造部長 中尾 久彦

連絡先 TEL 0949-22-1400
 FAX 0949-22-1410

E-mail 「h.nakao@ishibashitechno.co.jp」

2 事業内容

大型プレス機械による成形加工及び組付
ステンレス・スチール・アルミ深絞り成形加工
金型設計製作

3 事業の規模

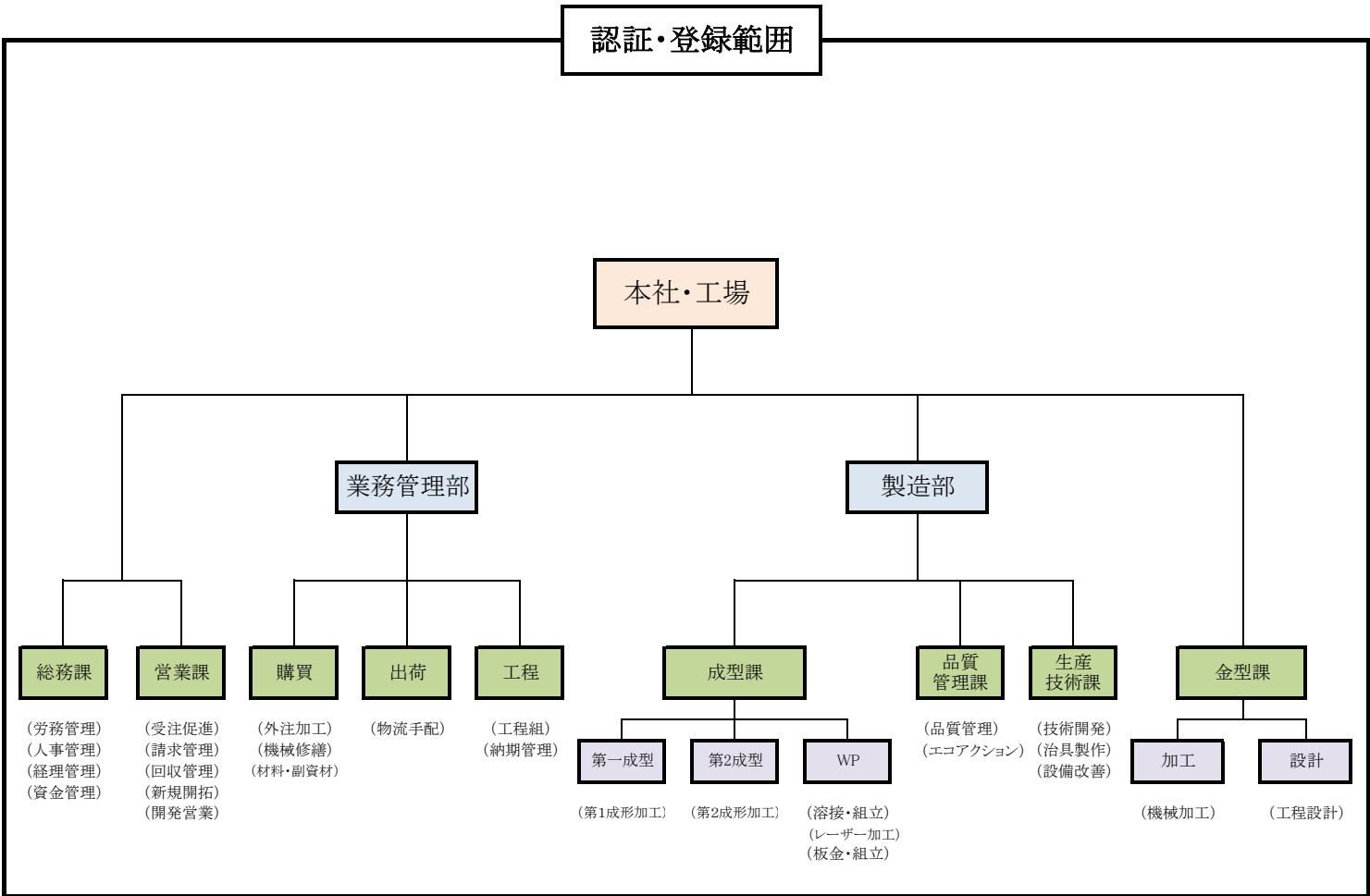
	単位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高（該当年度）	百万円	556	517	566
主要製品生産量	t	994	979	969
従業員数	人	23	23	26
事業所床面積	m ²	4838	4838	4838

*上記記載内容は、活動期間と同調した記載とする。

事業年度 6月～翌年5月
活動年度 該当年度：4月～翌年3月

認証登録範囲 本社・工場（全組織・全活動）

2. 組織図及び認証・登録範囲(認証・登録範囲は以下のとおり)



EA21 役割分担表

代表者	全体統括者としての環境方針の設定
	環境取組み実施のための資源の準備
環境管理責任者	環境取組み実施のための資源の準備・技術開発導入の提案
	EA21委員会の主催
	環境経営システムの評価と見直し
EA21委員会	環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況の審議
	環境目標の設定
	活動計画の審議
業務管理部・部長	業務部門推進項目の達成状況の把握と推進
	活動計画の策定
	推進項目の実施と管理
製造部・部長	生産部推進項目の達成状況の把握と管理
	活動計画の策定
製造部・次長	推進項目の実施と管理
総務課・次長	電力、水使用量、コピー枚数の実績把握と管理
	推進項目の実施と管理
	法規関連の情報収集と遵守状況のチェック
事務局	環境目標、活動計画、推進項目の達成状況のまとめ
	油、灯油、廃棄物の実績把握と管理

3. 当年度及び中期 環境経営目標

環境経営目標		単位	基準年度 基準値	2022年度 (4月～翌年3月) 目標	2023年度 (4月～翌年3月) 目標	2024年度 (4月～翌年3月) 目標
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/t(生産重量) (原単位)	282 (2016～19年平均)	265 (6%削減)	259 (8%削減)	254 (10%削減)
2	廃棄物総排出量の削減	kg/t(生産重量) (原単位)	10.9 (2015～16年平均)	9.6 (12%減)	9.4 (14%減)	9.2 (16%減)
3	水使用量の削減	m ³ /t(生産重量) (原単位)	0.64 (2015～16年平均)	0.56 (12%減)	0.55 (14%減)	0.54 (16%減)
4	省エネルギーの推進	省エネ車 (燃費基準達成車)	保有率:60% (2015～16年平均)	1台以上/年 (切替台数) (事業部目標)	1台以上/年 (切替台数) (事業部目標)	1台以上/年 (切替台数) (事業部目標)
5	製品・サービスに関する事項	製品不具合発生の低減 (不良/製品生産数)	工程内不具合発生率 (2020年実績) 不具合発生率:0.534 (2020年実績)	0.513 (事業部目標:4%減)	0.502 (事業部目標:6%減)	0.491 (事業部目標:8%減)
		生産性向上(総稼働率)	主体作業稼働率 (生産稼働率)	70%以上 (事業部目標)	70%以上 (事業部目標)	70%以上 (事業部目標)
		社外クレームの低減	発生件数 (社外クレーム) (品質不具合件数) (2020～21年平均)	7件/年 (事業部目標)	6.0以下 (事業部目標)	6.0以下 (事業部目標)
6	事業部活性化の推進	改善提案活動の推進	提案検数 (提案検数/対象人員) 1件/月・人 (平均実績0.73件) (2015～16年平均)	1件以上/月・人 (事業部目標)	1件以上/月・人 (事業部目標)	1件以上/月・人 (事業部目標)
		工場内外の整備推進	実施件数 (5S展開・整備) 4件/年 (1件/四半期)	4件以上/年 (事業部目標)	4件以上/年 (事業部目標)	4件以上/年 (事業部目標)

※平成27年度実績(H28.12.27公表)電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.528(kg-CO2/kWh) 九州電力(株) (調整後排出係数)
※平成27年度実績(H28.12.27公表)電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.410(kg-CO2/kWh) イーレックス(株) (調整後排出係数)
※中長期環境経営目標及び二酸化炭素排出係数見直し時期:2025年度

4. 当年度の主要な環境経営活動計画

「2023年度環境経営活動推進計画」

1. 二酸化炭素総排出量の8%削減

1	電力使用量の削減	①	空調機温度設定管理の推進
		②	空調機器の定期的清掃(フィルター)
		③	照明(天井、手元含む)の不要時の電源OFFの徹底
		④	電気機器の不使用时の、電源OFFの徹底
		⑤	コンプレッサの稼働ロスの低減(エアー漏れ、フィルター清掃)
2	灯油使用量の削減	①	暖房温度の適正管理(作業場、休憩所)
		②	長時間作業場を離れるときは火を必ず消す(ストーブ)
3	ガソリン使用量の削減	①	フォークリフト搬送走行速度の遵守
		②	フォークリフト空荷走行の減少
		③	アイドリングストップの励行(フォークリフト)
		④	搬送作業の効率的な推進(一時保管など)
		⑤	省エネドライブの励行(社用車)
4	軽油使用量の削減	①	積載効率の遵守(移送＝混載出荷)
		②	省エネドライブの励行
5	液化石油ガス(LPG)使用量の削減	①	給湯器等の効率使用
		②	手洗い時の効率使用

2. 廃棄物総排出量の14%削減

1	不良品の削減	①	加工工程手順改善等による、不具合の低減
		②	プレス方法(調整)金型修正の変更による不具合の低減
2	廃棄物排出量の削減	①	木製パレットのリサイクルの推進
		②	廃材のリサイクル実施(端材)
		③	製品包装の外装箱の回収(リサイクル)
		④	加工材料の最適化の推進(端材の排出減量)

3. 水使用量の14%削減

1	節水活動	①	手洗い時の節水実施(手洗い手順の遵守)
		②	製品洗浄作業での節水

4. 省エネルギーの推進

1	エコドライブの実践	①	通勤時及び敷地内でのエコドライブ運転の実行
		②	出入りの運送業者へのエコドライブの推奨
2	省エネ車への切り替え	①	車の乗換時に燃費基準達成車両への切り替え

5. 製品・サービスに関する事項

1	部品品質の向上	①	不具合の低減(歩留まりの向上)
2	生産性向上(総稼働率)	①	プレス加工作業の生産性の向上(主体作業)
		②	付随作業の効率的な作業の実施(搬送作業、段取り)
3	社外指摘件数の低減	①	社外指摘発生件数の低減

6. 事業部活性化の推進

1	改善案実施活性化の推進	①	改善案実施件数の推進
2	工場内外の整備推進	①	不要品の除去及び配置換えによる作業環境の改善
		②	設備メンテナンス実施による稼働ロスの低減

5. 目標の実績

* 2023年4月～2024年3月までの期間の目標に於ける実績は以下の通りであった。

環境経営目標			単位	基準年度 基準値	2023年度 (4月～翌年3月) 目標	2023年度 (4月～翌年3月) 実績	目標の達成率	評価	
二酸化炭素総排出量			kg-CO2	341,550		249,145			
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2/t(生産重量) (原単位)	282 (2016～19年平均)	259 (8%減)	257	101%	○	
	電気使用量の削減		kWh/t(生産重量)	516.3 (2016～19年平均)	475.0 (8%減)	468.9	101%	○	
	灯油使用量削減		L/t(生産重量)	0.47 (2016～19年平均)	0.43 (8%減)	0.35	123%	○	
	液化石油ガスの削減		kg/t(生産重量)	0.181 (2016～19年平均)	0.167 (8%減)	0.091	目標達成	○	
	ガソリン使用量の削減		L/t(生産重量)	5.99 (2016～19年平均)	5.51 (8%減)	4.61	119%	○	
	軽油使用量の削減		L/t(生産重量)	0.47 (2016～19年平均)	0.43 (8%減)	0.57	76%	×	
2	廃棄物総排出量の削減		kg/t(生産重量) (原単位)	10.9 (2015～16年平均)	9.4 (14%減)	11.9	79%	×	
3	水使用量の削減		m ³ /t(生産重量) (原単位)	0.64 (2015～16年平均)	0.55 (14%減)	0.50	111%	○	
	省エネルギーの推進	省エネ車への切り替え	省エネ車 (燃費基準達成車)	保有率:60% (2015～16年平均)	1台以上/年 (初替台数) (事業部目標)	2	目標達成	○	
5	製品・サービスに関する事項		製品不具合発生の低減	不具合発生率 (不良/製品生産数)	0.534 (2020年実績)	0.502 (事業部目標:6%減)	0.406	124%	○
			生産性向上(総稼働率)	主体作業稼働率 (生産稼働率)	70%以上 (主体作業)	70%以上	72.2	103%	○
			社外クレームの低減	発生件数 (社外クレーム)	7件/年 (2020～21年平均)	6.0以下 (事業部目標)	8.0	未達	×
6	事業部活性化の推進		改善提案活動の推進 (提案検数/対象人員)	提案検数 (平均実績0.73件) (2015～16年平均)	1件/月・人 (事業部目標)	1件以上/月・人 (事業部目標)	0.15	未達	×
			工場内外の整備推進 (5S展開・整備)	実施件数 (1件/四半期)	4件/年 (事業部目標)	4件以上/年 (事業部目標)	5	125%	○

* 目標達成率95%以下: ×、95%～99%: △、100%～149%: ○、150%以上: 目標達成として記載する。

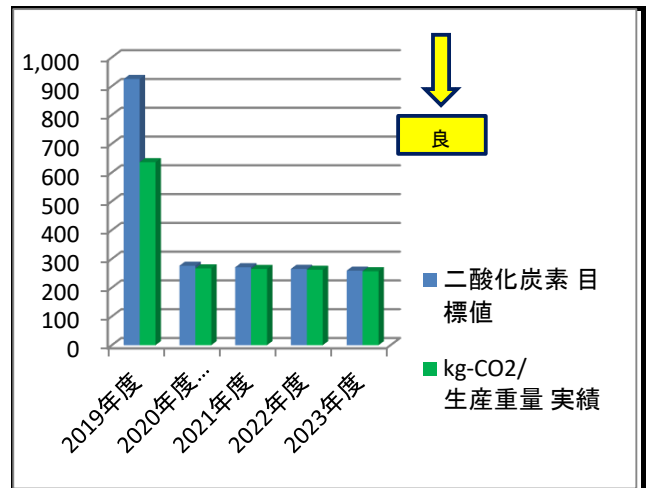
※平成27年度実績(H28.12.27公表)電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.528(kg-CO2/kWh) 九州電力(株) (調整後排出係数)

※平成27年度実績(H28.12.27公表)電気事業者別二酸化炭素排出係数:0.410(kg-CO2/kWh) イーレックス(株) (調整後排出係数)

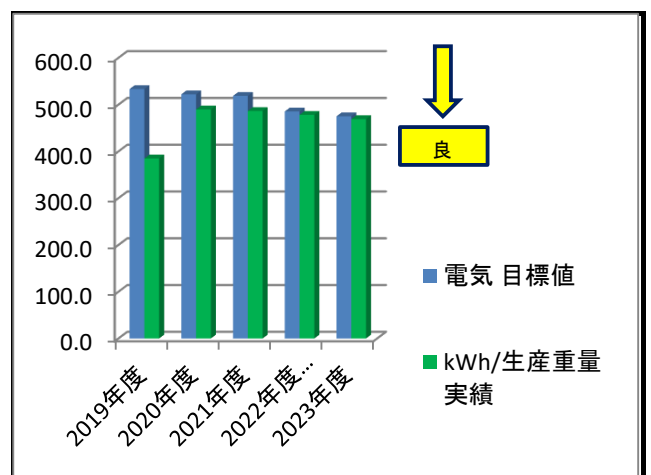
※中長期環境経営目標及び二酸化炭素排出係数見直し時期:2025年度

5-1 環境経営目標の達成状況

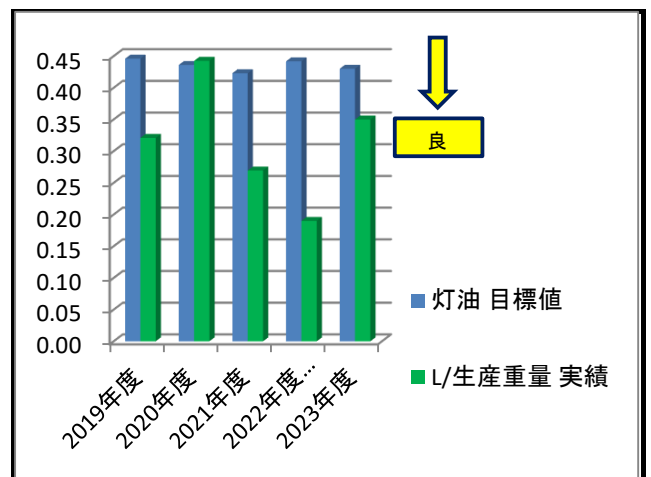
		6%(減)	2%(減)	4%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度 (目標値変更)	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素	目標値	925	276	271	265	259
kg-CO2/ 生産重量	実績	636	267	265	262	257
評価		○	○	○	○	○
総排出量 (kg-CO2)	実績	301,699	276,144	263,839	256,887	249,145
目標は何とかクリアも、排出量は年々減らすことが出来ており、日々の活動が定着している。						



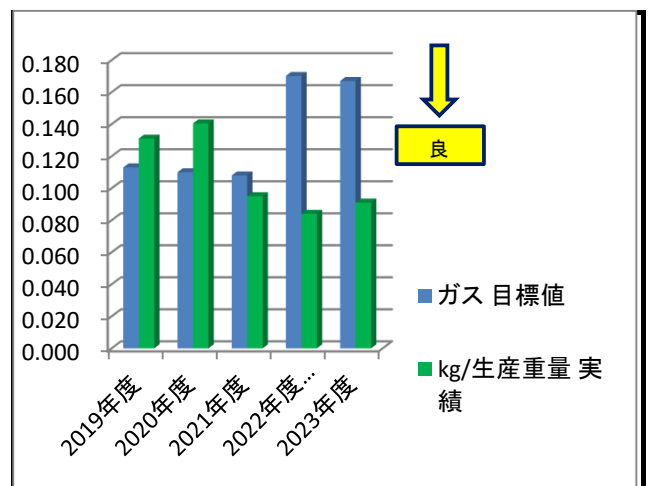
		6%(減)	8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
電気	目標値	533.2	521.9	518.7	485.3	475.0
kWh/生産重量	実績	384.8	489.7	486.3	478.1	468.9
評価		○	○	○	○	○
使用量(kWh)	実績	552,381	505,621	483,574	468,105	454,423
年々削減できていることから、日々の活動の定着化の他、省エネ設備への更新など、設備面での効果も出ているものと思われる。						



		6%(減)	8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
灯油	目標値	0.45	0.44	0.42	0.44	0.43
L/生産重量	実績	0.32	0.44	0.27	0.19	0.35
評価		○	○	○	○	○
使用量(L)	実績	462	457	268	188	339
寒暖差が激しく、使用量は増加したものの、目標値はクリアできた。						

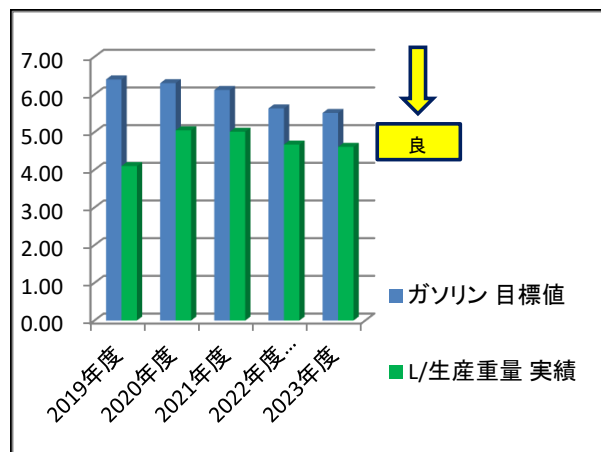


		6%(減)	8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
ガス	目標値	0.113	0.110	0.108	0.170	0.167
kg/生産重量	実績	0.131	0.141	0.095	0.084	0.091
評価		×	×	○	○	○
使用量(kg)	実績	188	145	95	83	89
使用量は冬季の手洗いが主となっているため、人員数によって、バラつきが出てしまう傾向にあるが、適切な利用により、目標値はクリア出来た。						

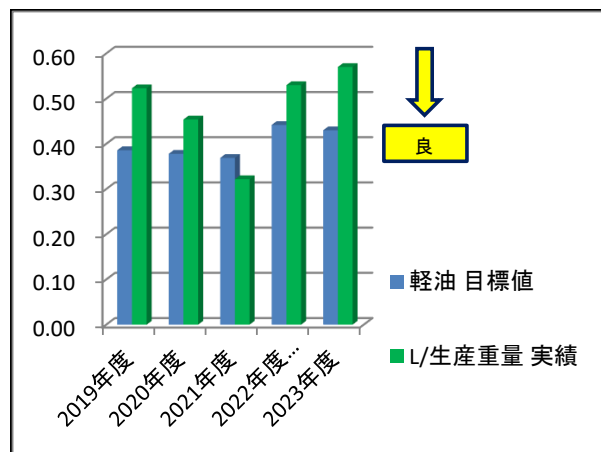


5-2 環境経営目標の達成状況

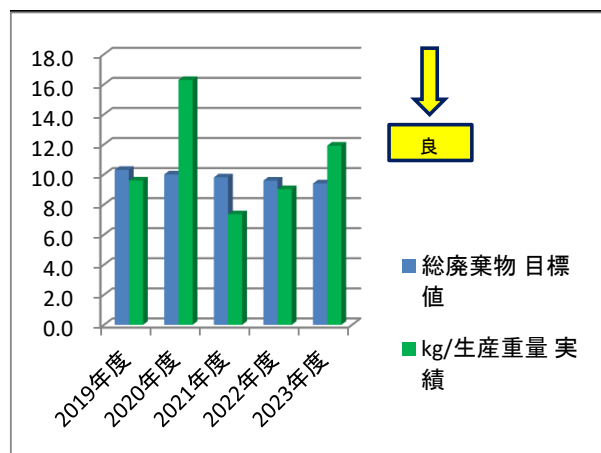
		6%(減)	8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
ガソリン	目標値	6.40	6.30	6.12	5.63	5.51
L/生産重量	実績	4.10	5.05	5.01	4.67	4.61
評価		○	○	○	○	○
使用量(L)	実績	6,018	5,215	4,983	4,568	4,471
場内整理による作業場スペースの確保や出荷品目の事前集約などが効率的に出来た結果、目標値クリア。						



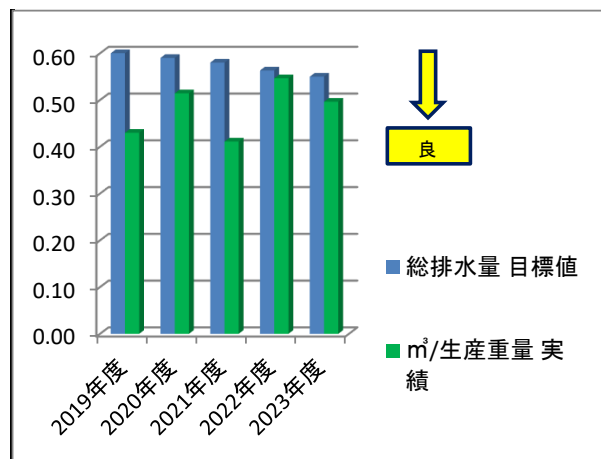
		6%(減)	8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
軽油	目標値	0.39	0.38	0.37	0.44	0.43
L/生産重量	実績	0.52	0.45	0.32	0.53	0.57
評価		×	×	○	×	×
使用量(L)	実績	751	469	320	518	551
運賃の上昇の影響もあり、自社便を活用した結果、目標未達となった。						



		6%(減)	8%(減)	10%(減)	12%(減)	14%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総廃棄物	目標値	10.3	10.0	9.8	9.6	9.4
kg/生産重量	実績	9.6	16.3	7.4	9.0	11.9
評価		○	×	○	○	×
排出量(kg)	実績	13,770	14,170	7,310	8,830	11,550
場内整理を進めていった結果、廃棄物が多く出たため、目標未達となった。						

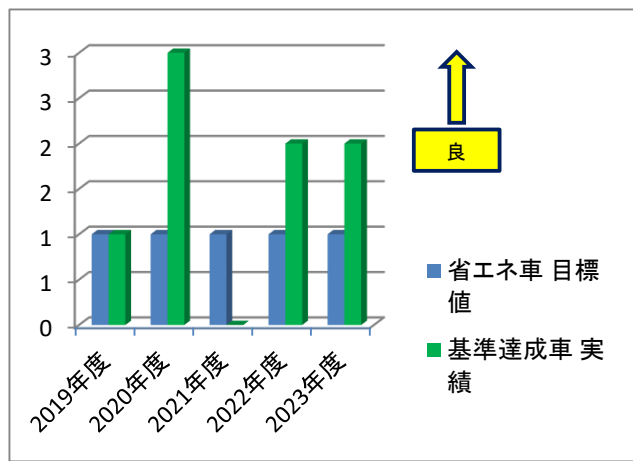


		6%(減)	8%(減)	10%(減)	12%(減)	14%(減)
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総排水量	目標値	0.60	0.59	0.58	0.56	0.55
m³/生産重量	実績	0.43	0.51	0.41	0.55	0.50
評価		○	○	○	○	○
使用量(m³)	実績	628	531	409	535	481
目標値クリアも、漏水があり、多めの使用となった。						

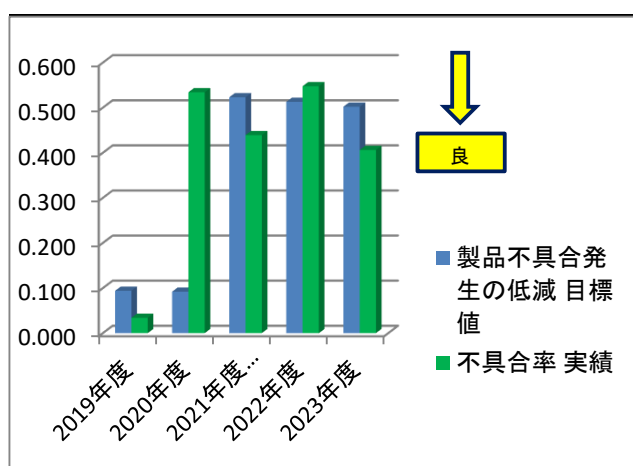


5-3 環境経営目標の達成状況

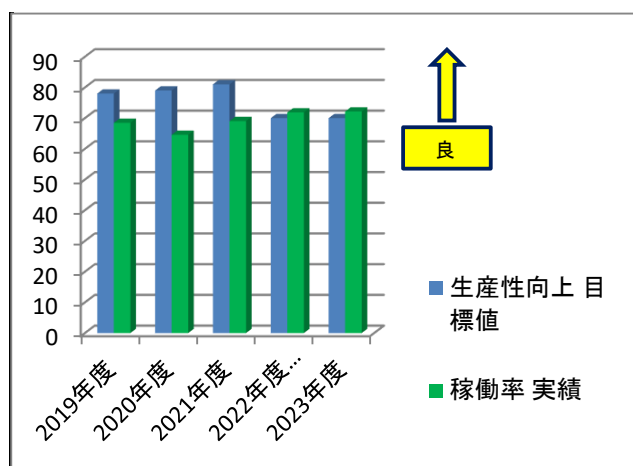
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
省エネ車	目標値	1	1	1	1	1
基準達成車	実績	1	3	0	2	2
評価		○	○	×	○	○
車の乗換えが多かったため、目標クリア。						



項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度 (目標値変更)	2022年度	2023年度
製品不具合発生 の低減	目標値	0.094	0.092	0.523	0.513	0.502
不具合率	実績	0.034	0.534	0.439	0.548	0.406
評価		○	×	○	×	○
検査帳票類の整備を進めた結果、目標値クリアとなった。						

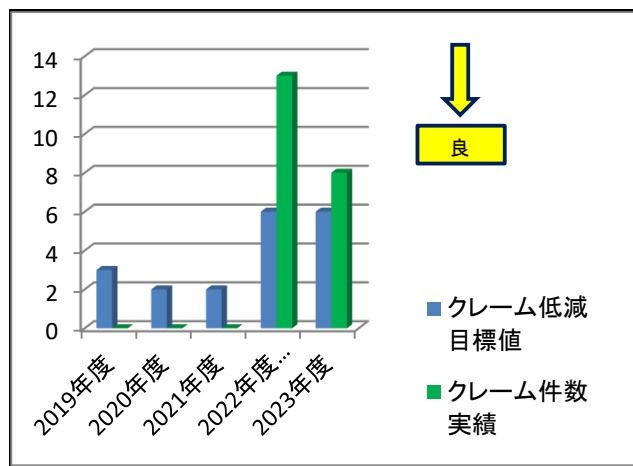


項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
生産性向上	目標値	78	79	81	70	70
稼働率	実績	68.5	64.6	69.1	71.9	72.2
評価		×	×	×	○	○
金型の適正配置や生産計画の調整により、目標クリア。						

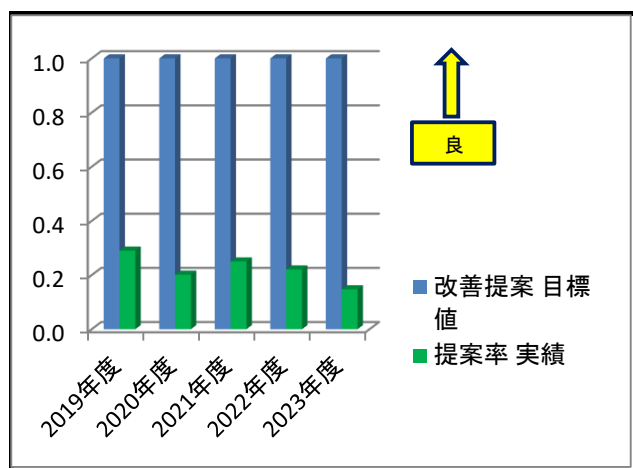


5-4 環境経営目標の達成状況

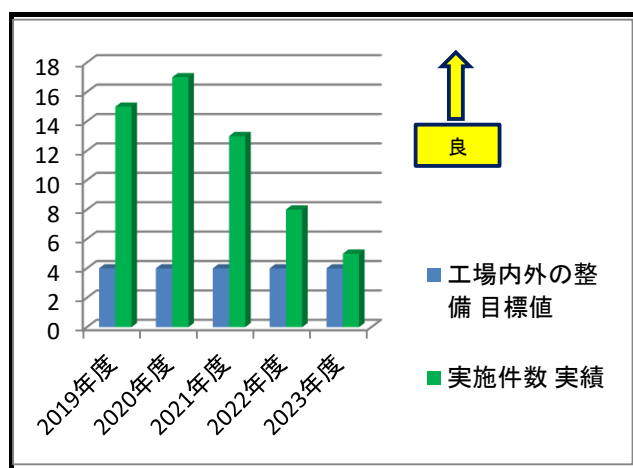
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度
クレーム低減	目標値	3	2	2	6	6
クレーム件数	実績	0	0	0	13	8
評価		○	○	○	×	×
外観に関するご指摘を多くいただいた結果、目標未達となった。						



項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
改善提案	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
提案率	実績	0.29	0.20	0.25	0.22	0.15
評価		×	×	×	×	×
場内改善・作業改善は出来ているが、提案件数として提出されないことが多く、結果として提出件数の大幅な低下となった。						



項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
工場内外の整備	目標値	4	4	4	4	4
実施件数	実績	15	17	13	8	5
評価		○	○	○	○	○
工場内外の整備が、計画的に出来た結果となっている。						



6. 環境経営活動計画の取組結果とその評価

「2023年度環境活動推進計画」

1. 二酸化炭素総排出量の8%削減

取組目標	活動項目	取組の評価	
1 電力使用量の削減	① 空調機温度設定管理の推進	室温管理は、概ね定着して実施されている。	定着
	② 空調機器の定期的清掃(フィルター)	定期的に実施されている。	定着
	③ 照明(天井、手元含む)の不要時の電源OFFの徹底	消灯行為は、定着して実施されている。	定着
	④ 電気機器の不使用时の、電源OFFの徹底	不使用时の電源OFFは定着している。	定着
	⑤ コンプレッサの稼働ロスの低減(エアリーク、フィルター清掃)	定期的なフィルター清掃が実施されている。	定着
2 灯油使用量の削減	① 暖房温度の適正管理(作業場、休憩所)	作業場は体感による管理のため多少使用量が多い。	定着
	② 長時間作業場を離れるときは火を必ず消す(ストーブ)	遵守されている。	定着
3 ガソリン使用量の削減	① フォークリフト搬送走行速度の遵守	概ね遵守されている。	定着
	② フォークリフト空荷走行の減少	適宜の状況に応じて遵守されている。	定着
	③ アイドリングストップの励行(フォークリフト)	遵守されている。	定着
	④ 搬送作業の効率的な推進(一時保管など)	適正配置により、効率的な運搬ができています。	定着
	⑤ 省エネドライブの励行(社用車)	遵守されている。	定着
4 軽油使用量の削減	① 積載効率の遵守(移送＝混載出荷)	必要に応じての使用のため頻度含めて遵守されている。	定着
	② 省エネドライブの励行	遵守されている。	定着
5 液化石油ガス(LPG)使用量の削減	① 給湯器等の効率使用	適切に利用できている。	定着
	② 手洗い時の効率使用	手洗いは、定着して遵守されている。	定着

2. 廃棄物総排出量の14%削減

1 不良品の削減	① 加工工程手順改善等による、不具合の低減	不具合発生に対して適宜の対応策を実施している。	要継続
	② プレス方法(調整)金型修正の変更による不具合の低減	対象となる事象は特に発生しなかった。	要継続
2 廃棄物排出量の削減	① 木製パレットのリサイクルの推進	製品用パレット・リングへ転用し適切にリサイクルできている。	要継続
	② 廃材のリサイクル実施(端材)	製品用パレット補強などに利用できている。	要継続
	③ 製品包装の外装箱の回収(リサイクル)	従来の外装箱のリサイクルは継続して実施されている。	要継続
	④ 加工材料の最適化の推進(端材の排出減量)	金型への影響を考慮しながら、最適化している。	要継続

3. 水使用量の14%削減

1 節水活動	① 手洗い時の節水実施(手洗い手順の遵守)	実施されている。	定着
	② 製品洗浄作業での節水	品質に適応した使用が出来る。	定着

4. 省エネルギーの推進

1 エコドライブの実践	① 通勤時及び敷地内でのエコドライブ運転の実行	自己啓発として実行している。	定着
	② 出入りの運送業者へのエコドライブの推奨	受付口にてエコドライブの掲示を行い、周知している。	要継続
2 省エネ車への切り替え	① 車の乗り換え時に燃費基準達成車両への切り替え	乗り換え時期に、優先的に検討して実施している。	定着

5. 製品・サービスに関する事項

1 部品品質の向上	① 不具合の低減(歩留まりの向上)	外観の検査を十分に行う必要がある。	要継続
2 生産性向上(総稼働率)	① プレス加工作業の生産性の向上(主体作業)	効率的な工程調整が行えている。	要継続
	② 付随作業の効率的な作業の実施(搬送作業、段取り)	専用金型を近接配置して運用している。	定着
3 社外指摘件数の低減	① 社外指摘発生件数の低減	外観含む軽微な指摘を減らしていく必要がある。	要改善

6. 事業部活性化の推進

1 改善案実施活性化の推進	① 改善案実施件数の推進	実施済みであっても、改善提案提出を促していく。	要改善
2 工場内外の整備推進	① 不要品の除去及び配置換えによる作業環境の改善	作業環境の改善を状況に応じて着手して実施している。	要継続
	② 設備メンテナンス実施による稼働ロスの低減	設備不具合に関して適宜の対応処置を実施している。	要継続

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規とその遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘及び外部からの苦情や訴訟もありませんでした。

【適用される環境関連法規】

- | | |
|-------------------|------------------|
| ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | ・公害防止組織の整備に関する法律 |
| ・騒音・振動規制法 | ・浄化槽法 |
| ・消防法 | ・フロン排出抑制法 |

9. 代表者による全体評価と見直し結果

2023度の環境経営目標 達成状況としては、概ね良好な結果となり、弊社としては主なCO2排出要因となる電気・ガソリンなどは以前と比べ大幅に削減出来ていることから、エコアクション21を継続していく効果を実感することが出来た。
昨今の物価上昇や製品輸送に関わる2024年問題並び人員確保など、取り巻く環境は厳しいものではあるが、次年度以降も、更なる削減に向けて、活動を継続していくこととする。

◇. その他

特に記載する事項はありません。